



2015年理系第2問

1枚目 / 2枚

数理
石井K

2 関数 $f(x) = xe^x$ について、次の問いに答えよ。

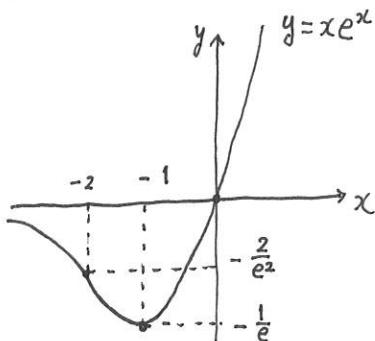
- (1) 関数 $y = f(x)$ について、増減および凹凸を調べ、そのグラフをかけ。ただし、必要ならば $\lim_{x \rightarrow -\infty} xe^x = 0$ を用いてもよい。
- (2) 不定積分 $\int xe^x dx$, $\int x^2 e^{2x} dx$ をそれぞれ求めよ。
- (3) $0 \leq t \leq 1$ に対し $g(x) = f(x) - f(t)$ とおく。 $0 \leq x \leq 1$ の範囲で、曲線 $y = g(x)$ と x 軸ではさまれる部分を、 x 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を $V(t)$ とする。 $V(t)$ を求めよ。
- (4) (3) の $V(t)$ が最小値をとるときの t の値を a とする。最小値 $V(a)$ と、 $f(a)$ の値を求めよ。ただし、 a の値を求める必要はない。

$$(1) f'(x) = e^x + xe^x = (x+1)e^x, f''(x) = e^x + (x+1)e^x = (x+2)e^x$$

$\therefore f'(x) = 0$ となるのは $x = -1$, $f''(x) = 0$ となるのは $x = -2$

また、 $\lim_{x \rightarrow -\infty} xe^x = 0$, $\lim_{x \rightarrow +\infty} xe^x = +\infty$

x	...	-2	...	-1	...
$f'(x)$	-	-	-	0	+
$f''(x)$	-	0	+	+	+
$f(x)$	↓	$-\frac{2}{e^2}$	↓	$-\frac{1}{e}$	↑



$$\begin{aligned} (2) \int xe^x dx &= \int x(e^x)' dx \\ &= xe^x - \int e^x dx \\ &= (x-1)e^x + C \quad (C \text{は積分定数}) \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} \int x^2 e^{2x} dx &= \int x^2 \left(\frac{1}{2} e^{2x}\right)' dx \\ &= \frac{1}{2} x^2 e^{2x} - \int x e^{2x} dx \\ &= \frac{1}{2} x^2 e^{2x} - \int x \left(\frac{1}{2} e^{2x}\right)' dx \\ &= \frac{1}{2} x^2 e^{2x} - \frac{1}{2} x e^{2x} + \int \frac{1}{2} e^{2x} dx \\ &= \frac{2x^2 - 2x + 1}{4} \cdot e^{2x} + C \quad (C \text{は積分定数}) \end{aligned}$$



2015年理系第2問

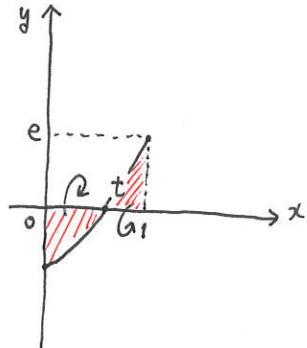
2枚目/2枚

2 関数 $f(x) = xe^x$ について、次の問いに答えよ。

- (1) 関数 $y = f(x)$ について、増減および凹凸を調べ、そのグラフをかけ。ただし、必要ならば $\lim_{x \rightarrow -\infty} xe^x = 0$ を用いてもよい。
- (2) 不定積分 $\int xe^x dx$, $\int x^2 e^{2x} dx$ をそれぞれ求めよ。
- (3) $0 \leq t \leq 1$ に対し $g(x) = f(x) - f(t)$ とおく。 $0 \leq x \leq 1$ の範囲で、曲線 $y = g(x)$ と x 軸ではさまれる部分を、 x 軸のまわりに 1 回転してできる回転体の体積を $V(t)$ とする。 $V(t)$ を求めよ。
- (4) (3) の $V(t)$ が最小値をとるときの t の値を a とする。最小値 $V(a)$ と、 $f(a)$ の値を求めよ。ただし、 a の値を求める必要はない。

(3)

$$\begin{aligned}
 V(t) &= \pi \int_0^1 \{f(x) - f(t)\}^2 dx \\
 &= \pi \int_0^1 x^2 e^{2x} - 2f(t)x e^x + \{f(t)\}^2 dx \\
 &= \pi \left[\frac{2x^2 - 2x + 1}{4} e^{2x} \right]_0^1 - 2f(t) \left[(x-1)e^x \right]_0^1 \cdot \pi \\
 &\quad + \left[x \{f(t)\}^2 \right]_0^1 \cdot \pi \\
 &= \frac{\pi}{4} \cdot (e^2 - 1) - 2\pi \cdot t e^t + \pi \cdot t^2 e^{2t} \\
 &= \pi \underbrace{\left\{ t^2 e^{2t} - 2t e^t + \frac{e^2 - 1}{4} \right\}}_{\prime \prime}
 \end{aligned}$$



$$(4) V'(t) = \pi \{ 2t e^{2t} + 2t^2 e^{2t} - 2e^t - 2te^t \} = 2\pi e^t (t+1)(te^t - 1)$$

$0 \leq t \leq 1$ で $V'(t) = 0$ となるのは、 $te^t = 1$ のとき。

$\therefore ae^a = 1$ が成立する。

$$V(a) = \pi \left\{ 1^2 - 2 \cdot 1 + \frac{e^2 - 1}{4} \right\} = \frac{e^2 - 5}{4} \pi$$

$$f(a) = ae^a = 1$$

t	0	...	a	...	1
$V(t)$	-	0	+		
$V(t)$	\searrow		\nearrow		